



▲役場窓口のようす

和顔施が町を変える

答弁：和顔施の心を職員に

牛房 「和顔施」(わげんせ)優しい笑顔は、自分よりもとより、周りの人たちまでも和やかに楽しくさせる。



牛房 良嗣 議員

これは、瀬戸内寂聴さんが東日本大震災の被災地に辻説法に行かれた折に話された一節です。また相田みつをさんの詩を紹介します。あなたがそこにたいていだけで、その場の空気が明るくなる。あなたがそこにたいていだけで、みんなのこころがやすらぐ。そんなあなたにわたしもなりたい。今、「まちづくりだ」「行革だ」と叫ばれているが、一番大事なことは、職員

の笑顔での挨拶。窓口の優しさと明るさなど「和顔施」の心と実践が、町をつくる土台となることを知るべき。

町長 役場全員が和顔施の心をもって町民に接し、和気あいあいの中で、仕事ができるよう努めたい。

【その他の質問】

- 国保税収納の改善対策
- 収納特別対策室の強化
- 高齢者支援課の新設



堤 久美子 議員

機構改革

答弁：総合的見直し考慮中

職員・建物の有効活用を

堤 介護保険法の一部改正に伴い、地域ケアシテムの取り組みが必須。可能な限り居室において能力に応じ、自立した日常生活を営む対策は、福祉課長 地域包括支援センターを設置する。

堤 24時間の訪問介護サービスで尊厳を保持し在宅で過ごせるが。福祉課長 24時間体制をどのようにするか検討中。堤 総合福祉施設を福祉ゾーンにし、関係各課をそこに配置できないか。福祉課長 サービスの低下、機能の連携が難しい。堤 近隣市町はできている。宅老所・望山荘の見直し、活用も検討を。福祉課長 検討していく。堤 ふれあいセンターを

教育ゾーンにし、教育委員会、学校・社会教育課が配置されれば、子どもたちと生涯学習を学ぶ方々等の交流もできる。地域交流課の所をコミュニティゾーンにし、コミュニティ室を設けて花づくり事業を設置しては。町長 1ヶ所さわると、総合的に見直していかなければならない。今検討中。



▲総合福祉施設内



▲検診会場



助村 千代子 議員

がん検診

新たな方法の導入を

答弁：国の指針に従って

助村 大腸がん検診については、働いている人等住民が受診しやすい検体の郵送受け付方式の導入を提案する。健康課長 国の指針では好ましくないとされている。国と同じ考え。

助村 京都では行っている。調査研究を望む。健康課長 今後調査研究を行なう。助村 胃がんについてはピロリ菌検診で胃がん発症リスクの高い人は、ピロリ菌除去等で予防できる。胃がんリスク検診を。健康課長 国の指針から外れている。助村 以前行なわれていた男性特有の前立腺がん検診の復活を望む。また子宮頸がんの早期

発見予防のため、効果的な現行の細胞診に加え、HPVウイルス検査の併用を強く要望する。健康課長 今後国及び福岡県の動向を見て取り扱いたい。

【その他の質問】

- 老人性難聴の早期発見に聴力検査の導入
- 骨粗しょう症検診の年齢設定は適正なのか

文化財活用

豎坑側に集めて公開

答弁：総合的に検討する

丸山 粗末な収蔵状況の歴史資料や扇風機坑口のプロペラ等を豎坑櫓周辺に集めて展示、公開できないか。町長 課題をため込んであるので総合的に配置が



丸山 真智子 議員

えを検討したい。丸山 産業振興のため官民協働で粕屋地区が一体となり、魅力を発信する物産展を行ったらどうか。牽引役は町長ですよ。町長 責任があるから慎重にならざるを得ない。丸山 九電などが街路灯に適應する10ワット以下の安価な電気料金を設定

した。防犯灯の電気料金補助(料金の12分の8)を下げ、設置の補助を上げたら普及するのではないか。町長 LED灯は寿命が長く、電気料金が安いといったメリットがある。必要性に迫られている。【その他の質問】

- 町民のために意欲的に働ける役場の職場環境



▲坂瀬文化財収蔵室